

コミュニティ福祉学部学内学会 第一回「研究実践奨励賞」選考報告

研究実践奨励賞選考委員会

2015年7月4日に開催された運営委員会にて、第一回研究実践奨励賞作品を、森開こゆき著『大学が少子化問題を解決する』、長谷直樹著『ブータン王国における保健体育～青年海外協力隊活動を通じて』とすることを決定した。

以下、同賞新設の経緯、選考体制および選考過程、受賞作品講評を報告する。

1. 学内学会研究実践奨励賞新設の経緯

在学生、卒業生、修了生、教員間の交流を促進させ、学会活動を活発化させることを目的として学会賞の新設が提案されたのは、2014年5月10日に開催された運営委員会においてである。同委員会での議論では、学会員が対等の立場で学び合うことを設立趣旨としている学内学会『まなびあい』において、特定の研究や実践に賞を授与することに懐疑的な意見が出された。しかし、このような賞を設けることが学び合うための具体的なきっかけを提供することになるのではないかと、さらに7年目を迎える当学会の活動内容をこれまで以上に在学生、卒業生、修了生に知ってもらうことが期待できるという意見も出され、学会賞の新設についての議論を続けることを決定した。

2014年6月14日、同年9月6日の運営委員会にて、事務局の準備した学会賞募集要綱(案)をもとに議論し、同年10月4日に第7回年次大会総会に学会賞の新設およびその要綱、細則(巻末「会則等」参照)を提案すること、また学会賞の名称を「研究実践奨励賞」とすることを決定した。

以上の経緯を経て、2014年11月9日コミュニティ福祉学会まなびあい第7回年次大会総会にて、「立教大学コミュニティ福祉学会研究実践奨励賞」の新設およびその要綱、細則が承認された。

2. 選考体制および選考過程

2014年12月6日および2015年2月28日に開催された運営委員会において、選考基準を含む選考体制および選考対象作品の範囲について話し合った。その結果、以下のよう

- ・選考基準：論文としての水準(論旨および議論の展開が明快であること)だけではなく、学会員である在学生、卒業生、修了生、教員に「元気を与えてくれるような」作品を選考する。
- ・選考体制：公平性を期すために選考委員会には運営委員メンバー以外からも選考委員

に加わってもらう(2015年3月10日、外部選考委員として原田峻先生への委嘱が決定)。

- ・選考対象作品：①第一回受賞作品は学会誌『まなびあい』7号所収作品を対象とする、②第一執筆者が在学生、卒業生の場合は教員との共著論文も対象とする、③実践については実践当事者以外の執筆者によるものも対象とする。その場合、執筆者ではなく実践内容を選考対象とする。

2015年4月16日より学生、卒業生、修了生、教員に研究実践奨励賞推薦の依頼を開始し、5月16日までに60通の推薦書提出があった。

選考委員に推薦書を事前に配布した上で開催された2015年5月23日の選考委員会にて、推薦書の内容および選考基準を参照しつつ、選考対象作品13編について議論した。その結果、二次選考で改めて検討する7編を選んだ。2015年7月4日に開催された2回目の選考委員会で森開こゆき著『大学が少子化問題を解決する』および長谷直樹著『ブータン王国における保健体育～青年海外協力隊活動を通じて～』を第一回研究実践奨励賞作品とすることを決定した。なお、「研究」と「実践」を1つのものとして受賞作品を選考したことを確認した。同日、その後開かれた運営委員会に選考結果を提案し、了承された。

3. 受賞作品講評

森開こゆき著『大学が少子化問題を解決する』については、論旨が明快であり、著者自身の経験に基づきつつ多様な関係者へのインタビュー調査によって議論が展開されている点が評価された。推薦書における推薦理由にも以下のような記述があった。「今の現状に納得できない事を自分は我慢していたが、この人は自分で動いて変えていった。あらゆる人にインタビューをしたり、当事者からの新鮮な気持ち、子育ての事実を知ることができた。「誰かが助けてくれるまで待っているは前に進めない」という言葉に心がひかれた」「文章に引き込まれました。自身の経験について書かれていたので説得力がありました。私も立教大学が子育て支援の仕組みを整えるべきだと思います。学校側が学生の将来に対して支援をすることで学生の可能性が広がると思いました」。

長谷直樹著『ブータン王国における保健体育～青年海外協力隊活動を通じて～』については、ブータン王国についての紹介や著者自身の活動内容が具体的に記述されており、コミュニティ福祉学研究科での学びが海外での活動に広がっていくことが読者に伝わる点が評価された。推薦書における推薦理由にも以下のような記述があった。「よく考察できていたと思いました。まとめに決定的な結論がないものの、筆者のこのテーマにおけるこの先のビジョンが感じられた。これからもっと発展すると同時に次々と課題が見えてくるテーマだと思う」「私がこの文章を推薦した理由は読者の読みやすい構成になっているからです。まずブータン王国がどういう国なのかを説明していたため、ブータン王国での保健体育がとてもイメージしやすくなり、その後の文章も想像を交えながらスムーズに読み進めていくことができました」。